

マタイの福音書 6章 9-13節

主の祈り (4)

6:9 だから、こう祈りなさい。『天にいます私たちの父よ。御名があがめられますように。

6:10 御国が来ますように。みこころが天で行われるように地でも行われますように。

6:11 私たちの日ごとの糧をきょうもお与えください。

6:12 私たちの負いめをお赦してください。私たちも、私たちに負いめのある人たちを赦しました。

6:13 私たちを試みに会わせないで、悪からお救いください。』〔国と力と栄えは、とこしえにあなたのものだからです。アーメン。〕

はじめに

短い復習をしましょう。イースター礼拝の為に主の祈りシリーズを休みましたが、今日はシリーズ4回目です。1-2回では先ず神様の栄光と御国の為に祈る事によって正しい観点で自分の必要が正しく見えるようになるとお話しました。3回目のメッセージでは、正しい観点で自分の必要の為に祈れることについてお話しました。短くまとめますと神様は天の父として祈る前に私達の全ての必要を知っておられるから、必要な時に必要に合わせて全ての恵みを与えて下さいます。祈る最大の目的は物をもらう為ではなくて、御心と一つになる事です。祈らなければ何も与えられないのではなくて、祈らなければ全ての恵みが神様から与えられているのが見えて来ないから、不満だらけの生き方で終わってしまうのです。神様と信仰によって歩むなら、満たされます。

マタイ6:11 「私たちの日ごとの糧をきょうもお与えください。」

もちろん、それは肉体の糧の意味ですが、同じように魂の糧である神の言葉も毎日必要です。別の箇所イエス様は旧約聖書を引用しました。

マタイ4:4 「イエスは答えて言われた。「『人はパンだけで生きるのではなく、神の口から出る一つ一つのことばによる。』と書いてある。」

今日の話の中心になる箇所はその続きの12節です。

1. 罪の赦しを頂く大切さ。

マタイ6:12 「私たちの負いめをお赦してください。私たちも、私たちに負いめのある人たちを赦しました。」

聖書全体の中でこれよりもっと大切な教えは一つもありません。受難日礼拝でこれについて話しましたが、それを聞いていない人も沢山いますから、一部を繰り返してお話します。

主の祈りという祈りの名前をもっと正確に言えば、弟子の祈りと呼ばれるはずですが、イエス様は自分の祈りとしてこの祈りを祈る必要は一回もありませんでした。嘘でも、人に対する悪い思いや気持ち一度も持ったことがなく、どんな罪でも、一度も犯さなかったからです。しかも、シリーズ一回目のメッセージで見たように、この祈りの背景として、弟子に頼まれたので祈り方を教えています。つまり、イエス様の弟子になってからでも、罪の悔い改めと赦しを頂く必要があります。

どのようにして神様は私達の罪を赦せるのかと言いますと、イエス様の十字架の上で既に裁いたから、その十字架の血によって新しい契約の約束に従って赦して下さいなのです。

ヘブル人10:15-17. 「聖霊も私たちに次のように言って、あかしされます。16 「それらの日の後、わたしが、彼らと結ぼうとしている契約は、これであると、主は言われる。わたしは、わたしの律法を彼らの心に置き、彼らの思いに書きつける。」またこう言われます。17 「わたしは、もはや決して彼らの罪と不法とを思い出すことはしない。」

完全な罪の赦しはイエス様の十字架で結ばれた新しい永遠の契約の土台なのです。それがなければ、神様と全く何の関係も築くことが出来ないし、それ以外の神様の霊的な祝福を一つも頂くことができません。それだけではありません。「二度と彼らの罪と不法とを思い出す事はしない。」の理解が一番大切です。一回神様に告白して赦された罪は完全に消されているから、引きずる必要も全くありません。これを理解していないなら、いつまでも、罪悪感や罪意識で平安のない生き方になってしまいます。神様が自分の子ども達に対して望んでおられるのは、平安で過ごせる事です。だから、一番繰り返して命令されているのは「恐れてはいけません」なのです。逆に、兄弟達の告発者と呼ばれているサタンの訴えと責める声を拒否して惑わされない為にもこれを覚えておくことが絶対に必要です。もちろん、イエス様が主の祈りの中で教えているのは口先だけの罪の告白ではありません。罪を悔い改めて二度とその罪を繰り返したくないから、真心からお詫びの気持ちで祈るという意味です。それをしない限り神様との和解を経験出来ません。前にも言いましたが、イエス様は私達が悔い改めるまで待って赦して下さったのではなくて、既に十字架の上で祈って赦して下さいました。でも、それによって和解が成立されて神様との平和を実現されるのは私達が悔い改めて赦しを求める時です。片方だけで和解と平和は実現されませんし、神様もイエス様も強制的にそれを押し付けることはしません。聖書の中に悔い改めのない救いはありません。それでイエス様の一番最初のメッセージは「悔い改めて福音を信じなさい。」とあります。つまり、不信仰を悔い改めなさいということです。それで、先週にも言いましたが、全ての人が最初に悔い改めなければならない罪は不信仰と言う罪です。不信仰は神様の存在を否定していると言う意味だけではなくて、神様から離れて生きている事です。心から神様を求めないで、自分の意志だけで生きている事です。それが未信者の最初の悔い改める罪ですが、主の祈りは未信者ではなくて弟子の祈りなので、特定の罪の赦しを求めている祈りです。曖昧ではなくて示されている罪を認めて、その名前を使って神様に告白して赦しを求めるのです。

2. 赦しを与える大切さ

マタイ6:14-15「もし人の罪を赦すなら、あなたがたの天の父もあなたがたを赦してくださいます。15しかし、人を赦さないなら、あなたがたの父もあなたがたの罪をお赦しになりません。」主の祈りの中から、イエス様はこれだけをもう一度指摘して明確な厳しい言葉を使って強調しました。別の箇所でもイエス様はたとえ話しによって更に詳しくこの教えをかなり強調しました。マタイ18:23-27。「このことから、天の御国は、地上の王にたとえることができます。王はそのしもべたちと清算をしたいと思った。24清算が始まると、まず一万タラントの借りのあるしもべが、王のところに連れて来られた。25しかし、彼は返済することができなかったので、その主人は彼に、自分も妻子も持ち物全部も売って返済するように命じた。26それで、このしもべは、主人の前にひれ伏して、『どうかご猶予ください。そうすれば全部お払いいたします。』と言った。27しもべの主人は、かわいそうに思って、彼を赦し、借金を免除してやった。」全部を読む時間はありませんが、そのしもべは出て行って自分に少しの借金のある仲間を赦しませんでした。それが主人の耳に入ったため、酷いしもべをもう一度呼んで赦しを消しました。最初にペテロが何回赦さなければならないかと質問をしたため、イエス様はこの例え話をしました。イエス様は被害者として加害者との和解の方法について話していたのですが、ペテロは被害者として何回赦すべきかについて質問したのです。イエス様の答えは7回ではなくて7×70回、この意味は490回という意味ではなくて、無限と言う意味です。つまり、あなたは神様にどれ程赦されたかを忘れてはいけません。自分の赦されている分がはるかに大きいから、どこまででも、赦すのは当たり前です。それをしないなら、あなたの方が酷くて神様に赦されないと明確に教えています。主の祈りは弟子の為に教えられたので、信者の罪が赦されないという意味を説明する必要があります。

裁きは神の家から始まる・・・

第一ペテロ**4:16-17**. 「しかし、キリスト者として苦しみを受けるのなら、恥じることはありません。かえって、この名のゆえに神をあがめなさい。

17 なぜなら、さばきが神の家から始まる時が来ているからです。さばきが、まず私たちから始まるのだとしたら、神の福音に従わない人たちの終わりは、どうなることでしょうか。」

イエス様の信者はこの世と共に罪に定められない為に、自分から悔改めようとしなければ、救われる為に今、裁かれる事があります。永遠の裁きの意味ではなく、正す為の愛のむちです。

ヤコブ**3:1** 「私の兄弟たち。多くの者が教師になってはいけません。ご承知のように、私たち教師は、格別きびしいさばきを受けるのです。」

現代の教会でこれをおしえられているのを聞いた事はありません。もちろん、出来るだけ多くの信者が教会で奉仕をするのが大切ですが、自分は神様の為に何がしたいかと言うよりも、全てを神様に明け渡して神様の導きに従って奉仕をすることが必要です。

聖書で最も厳しい命令を見る時に神様は酷くて厳しい方だと思わないで、この命令は私の幸せと祝福の為にどれほど大切か、と考える方が正しいです。神様は私達を縛る為に、束縛する為に命令する必要は全くないし、逆に開放する為に命令して下さっているのです。

ヨハネ**8:31-32**. 「そこでイエスは、その信じたユダヤ人たちに言われた。「もしあなたがたが、わたしのことばにとどまるなら、あなたがたはほんとうにわたしの弟子です。**32** そして、あなたがたは真理を知り、真理はあなたがたを自由にします。」

3. 平和をつくる者は幸いです。

マタイ**5:9** 「平和をつくる者は幸いです。その人は神の子どもと呼ばれるからです。」

平和をつくる方法には少し触れましたがもう少し深く見て頂きたいです。イエス様はここで、これが神の子ども達の明確な区別が付く特徴だと言っています。イエス様の言葉の中でもこれが世の中で最も引用されている有名な言葉ですが、最も誤解されている言葉の一つでもあります。と言うのは第三者の争いを解決する人が神の子どもと呼ばれる意味として解釈されているのです。イエス様はその意味で言った訳ではなくて、自分自身と争っている人との間に平和をつくる人は幸いだと言っているのです。

ローマ**12:18** 「あなたがたは、自分に関する限り、すべての人と平和を保ちなさい。」

これを読んでホッとする人は沢山いると思います。全ての人と平和をつくりなさいと書いていないからです。最初のポイントでも説明しましたように、神様と私達の関係でも、イエス様の十字架によって赦されても、その人がそれ受け入れるまで和解と平和が成立されません。全ての人と神様との和解によって平和を経験しているわけではないのです。悔い改めてイエス様を信じて受け入れる人だけです。聖書の預言の中で平和の君と呼ばれているイエス様でも、受け入れる人と平和をつくと限られています。それで、全ての人と平和をつくりなさいと教えておらず、全ての人を赦しなさいと教えているのです。その方法の明確な模範もみせて下さいました。

第一ペテロ**2:21-23**. 「あなたがたが召されたのは、実はそのためです。キリストも、あなたがたのために苦しみを受け、その足跡に従うようにと、あなたがたに模範を残されました。**22** キリストは罪を犯したことがなく、その口に何の偽りも見いだされませんでした。

23 ののしられても、ののしり返さず、苦しめられても、おどすことをせず、正しくさばかれる方にお任せになりました。」

ここにどんな酷い罪でも赦せる秘訣が書いてあります。「正しく裁かれる方にお任せになりました。」です。あなたが神の子どもなら、全てを任せる所が出来ています。父なる神様は全てを正しく裁かれる方なので、自分でその重荷を負わなくてもいいのです。委ねる事によって解放されます。未信者のように赦せない思いと、それが引き起こす精神的な負担をいつまでも引きずって被害者として生きる必要はありません。赦すのは、相手の為よりも自分の為になります。

コリント第二**5:17-20**. 「だれでもキリストのうちにあるなら、その人は新しく造られた者です。古いものは過ぎ去って、見よ、すべてが新しくなりました。**18** これらのことはすべて、神から出ているのです。神は、キリストによって、私たちをご自分と和解させ、また和解の務めを私たちに与え

てくださいました。19すなわち、神は、キリストにあって、この世をご自分と和解させ、違反行為の責めを人々に負わせないで、和解のことばを私たちにゆだねられたのです。20 こういうわけで、私たちはキリストの使節なのです。ちょうど神が私たちを通して懇願しておられるようです。私たちは、キリストに代わって、あなたがたに願います。神の和解を受け入れなさい。」

この箇所は神の子どもとして永遠の平和をつくる方法について書かれています。3回も和解と言う言葉を使っています。17節には神の子どもとして新しく生まれる人の事が、そして18節には全ての神の子どもに和解の務めを与えられることが書いてあります。19節はそれを実現する方法として和解の言葉を与えられていると教えています。当然、19節はキリストの福音を指して和解の言葉と言う表現をしています。それで、キリストによる罪の赦しによって神との和解を受け入れて下さいと人々に願います、と書いてあるのです。問題は、ほとんどの人に自分が神様と敵対している意識はないことです。なぜなら、自分は神様を否定も肯定もしていなくて中立の立場を取っているからです。でも、聖書の教えから言いますと、それは罪の本質が分かっていない証拠です。善と悪の中立は不可能なので、イエス様ははっきり言いました。

マタイ12:30. 「わたしの味方でない者はわたしに逆らう者であり、わたしとともに集めない者は散らす者です。」 イエス様は人から悪霊を追い出した為に、悪魔の力を使って追い出したと宗教の指導者達に訴えられ、この言葉で答えました。つまり、善と悪の問題は霊的な戦いなので、人間の力や人間の能力は通用しません。はっきりとイエス様を救い主として受け入れるまで私達は皆気が付かないうちに神様に敵対してしまっています。それで、20節に神様との和解を受け入れて下さい、とお願いしているのです。はっきりとキリストを受け入れて下さいと言う意味です。先ず、神様との平和を経験してそれから、他の人との本当の平和をつくる事も可能になります。敵同士でも、イエス様によって和解して本当の平和を、政治によってつくる平和ではなくて、キリストの福音による平和をつくるのです。神の子どもになっているすべての人がこの平和に貢献できます。

まとめ:赦され赦し合う事によって永遠の平和をつくる事が出来る

私達の母国である北アイルランド紛争の中でも、それを実際に経験している多くの人々を見て来ました。敵同士として殺し合っていた人々がイエス様を信じて受け入れてから、この教えに従って赦し合って和解をし、熱心に平和の為に命をかけて、平和の為に全力を尽くして働いています。他の紛争地でも、多くの人々はイエス様の赦しを受けてから、赦し合って和解と平和を経験しています。新しい事ではなくて、イエス様の最初の12人の弟子の中でもユダヤ人の熱心派に所属していた一人と敵国のローマ帝国の為に働いて税金を集めていた一人もいました。その二人はイエス様によって和解して一緒にイエス様の平和の福音を延べ伝える働きをしていました。日本は紛争地ではありませんが、多くの日本人は世界平和の為に貢献したいと思っています。でも、自分の身近な人の中で赦せない人がいるなら、当然、第三者の間の本当の平和にも貢献出来ません。

証：16歳の時に、私は紛争の真っ只中に住んでいた為にそれに巻き込まれてしまいました。イースターの時期でしたが、夜中に10人ぐらいのテロリストが武装して私達の家に入ってきて、私と双子の弟とをベッドの中から引きずり降ろし、私たちは外で待っている2台の車に一人一人ずつ乗せられて拉致されてしまったのです。その当時多くの人はその方法で殺されていましたが、しかも、彼らは報復のために来たので、私は処刑されるに決まっていたと思っていました。時間の感覚も飛んでしまっていたのですが、2時間程、酷い拷問を受けてから、私は両方の膝を拳銃で撃ち抜かれました。すぐその後で弟も同じように撃たれました。対立組織の相手でしたが、私はその相手の名前も知っていません。細かい話をする時間はないですが、7年ぐらい後で、その相手のリーダーがもう一度私達の家に来ました。私は神学校に行っていたからいりませんが、彼は私の父に赦しを求めて一緒に教会に行ってもいいですか？と言ったのです。父は教会の役員だったし、是非来て下さいと答えて連れて行きました。私も神学校から帰って来た時、一緒に毎週教会に行きました。彼も救われて私と和解することが出来ました。面白い事に、あの事件から7年経ったイースターの時期に、神様はその家で夜中に私を起こして聖書の御言葉によって宣教師の使命を与えて下さいました。その聖書の言葉は、次の箇所です。

イザヤ書の52:7「良い知らせを伝える者の足は山々の上にあつて、なんと美しいことよ。平和を告げ知らせ、幸いな良い知らせを伝え、救いを告げ知らせ、「あなたの神が王となる。」とシオンに言う者の足は。」

使徒パウロはそれを省略して新約聖書で使って

ローマ10:15b「良いことの知らせを伝える人々の足は、なんとりっぱでしょう。」
と言いました。